

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
E112K012	体育社会学 (Sociology of Physical Education)						対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	2	2	教育学部 令和2年度 以降入学生用		月2	日本語		単独					
担当 教員	氏名 谷口 勇一 E-mail tyuichi@oita-u.ac.jp 内線 7628												
授業 の 概 要	今日の社会生活において、スポーツという文化活動が必要不可欠な存在になろうとしていることを理解し、1) スポーツを教材として用いる体育の意味、2) スポーツ活動の場として機能する運動部活動をめぐる存在意味、3) 生涯スポーツ実践を意図した体育の教育的意味、等を社会的に検討する。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	
目標1	近代スポーツ及び体育の成立過程に関する歴史・社会的に理解する												
目標2	スポーツ及び体育を取りまく社会病理現象(バーンアウトシンドローム等)の発生メカニズムとその改善策を理解する												
目標3	スポーツ及び体育との好ましい関わり方に関する社会的な理解												
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						6	2		2				
授業の内容													
1	オリエンテーション(本授業の展開説明、体育・スポーツ社会学の概要)												
2	体育とスポーツをめぐる相違点の理解												
3	体育授業グループ学習の社会学												
4	教師と児童・生徒の関係性をめぐる社会学												
5	運動部活動運営に係る社会学(その1 マネジメントの実態)												
6	運動部活動運営に係る社会学(その2 地域との連携可能性)												
7	運動会の社会学												
8	近代スポーツの成立過程に関する歴史・社会的理解												
9	文化としてのスポーツの意味												
10	スポーツを取りまく社会病理												
11	スポーツと社会化(その1 重要な他者存在の意味)												
12	スポーツと社会化(その2 主体性の理解)												
13	コーチングの社会学(子どもへのスポーツ指導のあり方)												
14	生涯スポーツの社会学												
15	まとめ(体育・スポーツ社会的見方とは)												
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	適宜、受講学生によるグループワークを実施し、意見交換および発信の機会を創造する。					工 夫	そ の 他 の	毎回の授業コメントを提出させる。				
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	次回授業内容に関連する資料を読んでおく(教員より配布)(30H)											
	事後学修	授業内容に関する感想レポートの作成(15H)											
	想定時間合計	45											
教科書	学習指導要領(中学校編・高等学校編)総則の内容を基軸に、適宜関係資料を配布する。												
参考書	特になし(適宜、担当教員より授業資料を配布する)												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		毎回の授業コメント内容	20%									
	期末試験	80%										
注意事項												
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												